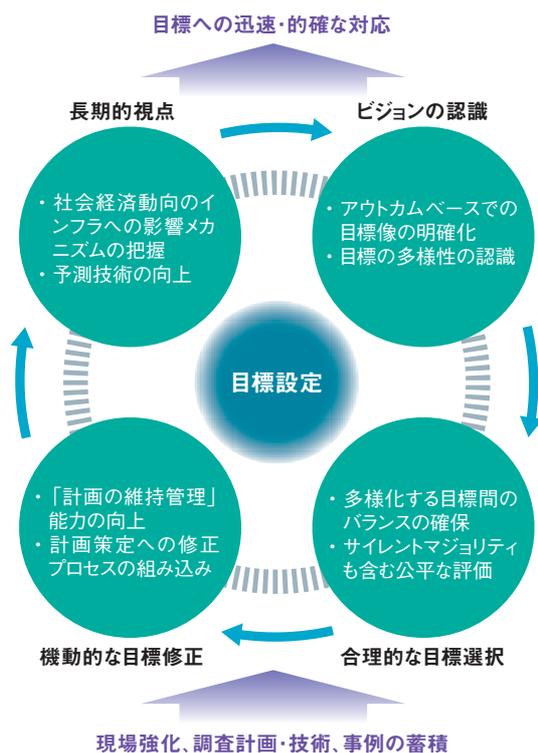


## 2 希望を叶えるために：人に立脚し現場に根ざした目標設定

現在、貧困削減、MDGs、人間の安全保障などが開発目標として合意されている。しかし、これらの目標やその水準は、国や地域、習慣その他、人々が属する状況により異なる。したがって、これらの様々な目標、ニーズに対し、インフラが効率的・効果的に応えていくためには、人々の多様なニーズを正確に把握、集約、設定し、状況の変化に応じて修正していくことが必要となる。

### インフラの再定義を踏まえた目標設定

インフラの目標設定は、インフラの再定義に基づくことで適切に行うことが可能となる。例えば、インフラの目標は、施設整備による直接的なアウトプット、あるいは近年導入されつつあるサービス、アウトカムといった考え方であるが、効果的なインフラとするためには、人々の潜在能力の発揮にインフラによるサービスアウトプット・アウトカムがいかに関与していくかということを考えることが重要であり、このことがすなわち目標となる。



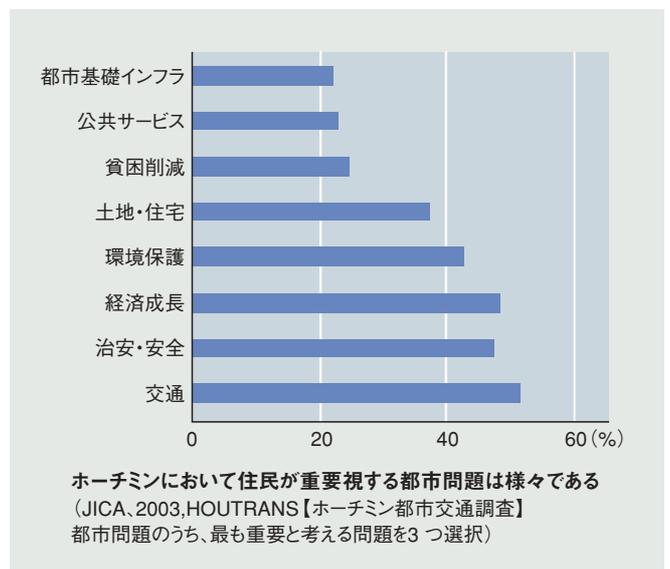
### 的確なニーズの把握

#### ○人々の目標の把握と開発課題との整合

貧困削減、MDGsといった援助目標は、開発の現場では、必ずしも理解されやすいものとはなっていない。またPRSP (Poverty Reduction Strategy Paper) など、目標を達成するための、より具体的なレベルの戦略を用いても、個別のインフラの目標設定は容易ではない。したがって、具体的なインフラのあり方を考える際には、上位の戦略を踏まえつつ、現場レベルでの正確な目標設定が必要となる。

#### ○様々な目標の把握

インフラの受益者は、個人、集団、地方政府、国家など様々であり、更に発展段階や地域、民俗、文化など受益者の属性も異なる。これら主体のビジョン、目標やそれを達成するために必要なインフラサービスの内容も様々である。更に、発展に伴う価値観の多様化や地方分権化等によって、その傾向は一層顕著になる。このように多様な受益者毎に必要なサービス・活動・ポテンシャルを現場レベルで人々の視点を取り入れて、的確に把握することが必要である。

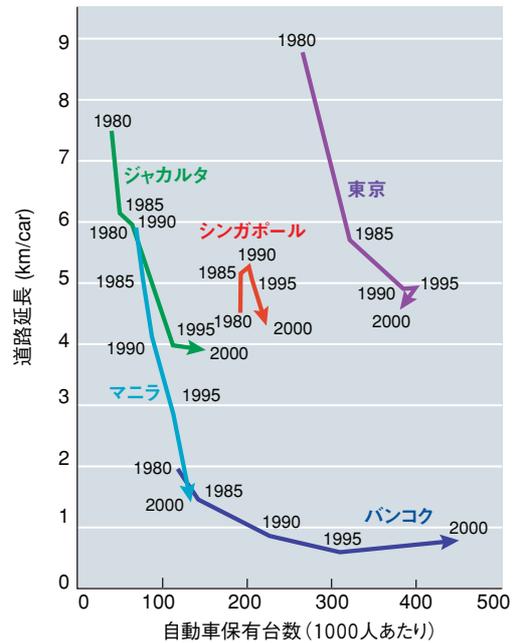


### 長期的観点からの目標設定

インフラの多くは寿命が長く、数世代に渡って利用される。また、パリのシャンゼリゼ通りやローマの水道に見られるように、インフラは整備された後その空間占有は半永久的に地域の骨格を規定し、社会・経済に大きな影響を及ぼす。そのため、インフラの目標設定は、人口・経済・社会・環境の、長期的な動向を予測した上で行う必要がある。

今後、様々な状況変化が予測されるが、例えば環境面では、温暖化による海面上昇のため、太平洋のツバル島では異常気象などの天災に対して脆弱になってきている（2001年には、島全体が冠水する被害があった）。中国におけるエネルギー需要の増大も顕著であり、国際エネルギー機関（IEA）の推計では、2003年中国の石油需要は世界第2位（549万バレル/日）となり、2020年には世界の需要の約9%を占めるとしている。

また、急速な都市化による人口の集中によって、都市インフラの不足が深刻になることが予想される。



自動車保有台数と道路延長の推移 (1980-2000)  
 ・ジャカルタ、マニラは長期的にバンコクの様相に近づいている。  
 ・モータリゼーションと都市化がインフラの不足を顕在化する。

### インフラを取り巻く社会経済状況

